

## 令和3年12月第426回大野市議会定例会の結果について(教育委員会関係分)

議案番号	議案名	結果	備考
議案第91号	令和3年度大野市一般会計補正予算(第6号)案	全会一致で可決	
議案第99号	大野市児童デイサービスセンターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案	全会一致で可決	
議案第105号	指定管理者の指定について(大野市児童デイサービスセンター)	全会一致で可決	
議案第109号	令和3年度大野市一般会計補正予算(第7号)案	全会一致で可決	子育て世帯への臨時特別給付金
議案第110号	教育委員会委員の任命について	全会一致で同意	松田輝治委員

## R3.12.16教育民生常任委員長報告(教育委員会関係分要約)

議案第91号、 議案第99号、 議案第105号 について	<p>条例改正では、これまで市が受領していた、サービス提供に伴う事業収入や利用者の負担金を、令和4年度からは、指定管理者が直接受領し、この収入を差し引いた金額を指定管理委託料とする「利用料金制」に変更することのこと。</p> <p>また、令和4年度からの5年間も、引き続き「医療法人平谷こども発達クリニック」を指定管理者とすることのこと。</p> <p>収入制度が大きく変わるため、理事者においては、<u>令和4年度からの業務も混乱なくスムーズにスタートできるように、指定管理者との綿密な連絡体制の整備を求める。</u></p>
スポーツ推進計画について	<p>「大野市スポーツ推進計画」はスポーツを通常より幅広い概念で捉え、「越前おおの健康づくり計画 第4次健幸おおの21」と連携し、スポーツを通じた健康の増進を基本目標としていること。</p> <p>委員からは「地区球技大会への子どもの参加促進のため、eスポーツの取り入れを積極的に進められたい」との意見や、「<u>学校の部活動を地域に移行できるように、教育委員会と連携を取り、指導者の育成に注力されたい</u>」などの意見が出された。</p>

文化財保存活用地域計画について	<p>「文化財保存活用地域計画」については、委員から「<u>公共施設再編計画との整合性を図りたい</u>」との意見が出されているので、求めておく。</p>
小中学校再編計画の改訂について	<p>再編計画検討委員会で計画案の最終確認を行い、総合教育会議で協議し、12月21日開催の定例教育委員会に、再編計画を改訂する議案を提出予定であるとのこと。</p> <p>委員からの「再編計画説明会で出された保護者の意見や疑問に、どのように答えを返すのか」との質問に対し、理事者から「現在の小学6年生が中学3年生となる令和6年4月に再編を迎え、新しい中学校区となる。そのため該当する学年の保護者を対象に、1月中旬に説明会を開催する予定」との回答があった。</p> <p>また、<u>大野市小中学校施設管理計画は、再編の受け入れ先となる学校を優先して改修する計画であり、具体的には、まず下庄小学校、開成中学校、陽明中学校の三校を、次に、有終南小学校、富田小学校を順次、改修工事を行う予定とのことであった。</u></p> <p>委員から、改修工事のスケジュールを尋ねたところ、理事者から「先に改修する3校は令和4年度に調査を行い、令和5年度から令和6年度の2年間を改修工事期間とする予定である。また残りの2校は、令和5年度、6年度にかけて調査を行い、7年度から8年度にかけて改修を予定している」との回答があった。</p> <p>中学校は令和6年4月に再編するとのことであるので、理事者においては、<u>改修工事に当たり、子どもの学習環境を損なわず、保護者や子どもたちに不安を与えることのないよう、丁寧に対応されたい。</u></p>
成人式について	<p>令和4年の成人式は来年1月9日に大野市文化会館で、午前と午後の2部に分けて開催を予定しており、2日前の7日に開催可否の判断を行い、延期の場合は速やかに連絡するとのことであった。</p> <p>委員からの「延期の連絡はどのように行うのか、また、いつに延期予定なのか」との問いに対し、理事者からは「事前登録されたLINEで連絡し、ホームページでも周知を図る。延期の場合は、3月20日に開催する予定」との回答があった。</p> <p>理事者においては、<u>大切なハレの日を迎える新成人の方はもとより、成人式に携わる多くの方に、漏れのない、丁寧な連絡と周知に努められたい。</u></p>

### R3.12.16人口減少対策特別委員長報告（教育委員会関係分要約）

<p>長期休業中の子ども居場所づくりについて</p>	<p>現在実施している五つの放課後児童クラブに加え、令和4年度は、長期休業中限定で、村部においても、保育が必要な児童を対象とした、放課後児童クラブの実施に向けて調整を進めているとのこと。</p> <p>「具体的にどのように進めるのか」との委員からの質問に対し、理事者からは「学校の空き教室等を活用し、まずは1カ所、実施していきたい。学校側に負担をかけないよう施設の一部改修や人員配置が必要である」との回答があった。</p> <p>長期休業中の子どもの居場所づくりに関しては、長年の課題であったので、大きく一歩前進したものと捉えており、今後も子育て世代のニーズに沿った施策を展開されるよう求める。</p>
<p>子育て世代への情報発信について</p>	<p>大野市子ども子育て会議オンラインアンケートの結果等を踏まえて、「大野ですくすく子育て応援パッケージ」に関する課題は「有効な情報発信を行い、子育て世代に浸透させること」であるとのこと。</p> <p>今後は、QRコードを掲載し、ホームページに誘導するなど工夫し、ブラッシュアップを図るとのこと。</p> <p>必要とする方に、必要な情報が、漏れなく伝わるよう、戦略的な情報発信に努められたい。</p>
<p>人口減少対策特別委員会の委員間協議について</p>	<p>「人口問題は日本全体の問題でもあり、特効薬というものはない。議員も理事者とともに考えていきたい」との意見や、「理事者に市民の反応を伝えながら、行政経営という観点で、理事者の施策をチェックしていきたい」との意見、また、「子どもが大野で住み続けることを選んでくれるよう、大野の良さを教え、大野に愛着を持ってもらえるような『ふるさと教育』が重要である。時間をかけて、長いスパンで見守りたい」など、多くの意見があった。</p>
<p>三月定例会における議論のテーマについて</p>	<p>当特別委員会では、人口減少対策に関する令和4年度予算について理事者からの説明を受け、このたびの総括を踏まえて、どのように施策に反映されているかを検証する。</p> <p>特に、今回課題として挙げられた「長期休業期間中の子どもの居場所について」と「住まいの確保」について、焦点を当てて議論していく。</p> <p>当委員会としては、市民に寄り添った、効果的な人口減少対策に取り組まれているかについて、引き続き評価と監視を行い、理事者から適切な情報提供を得ながら、委員間の闊達な議論や意見交換を行い、委員会としての提案を行っていく。</p>

○令和3年12月第426回大野市議会定例会一般質問（教育委員会関係分）

質問議員	質問内容	答弁内容(要約)／答弁者
12/6 (月) 林 順 和 議 員	2 大野市のより良い教育環境について／教育委員会事務局長  ①大野市小中学校再編計画の改訂案に対する市民意見の結果概要と、改訂後に力を入れていく点は何か。	<p>答弁者：教育委員会事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再編計画の改訂案について11月1日から15日までの15日間、パブリックコメントを行い、7人の方から13件の意見が提出され、学校数、児童生徒や保護者の負担軽減、本市が目指す学校教育に対してのご意見が多くあった。</li> <li>・学校数に関しては、一定規模の学習集団を形成して、主体的かつ対話的で深い学びを行うことが重要であると考えており、オンライン授業などについては、有効な手段と考えるが、あくまで補助的なものと捉えている。</li> <li>・児童生徒や保護者の負担軽減に関しては、学校区ごとに学校再編に向けた取り組みを検討するための準備委員会を設置し、保護者や地区の方々や学校、行政の間で丁寧に協議調整していくこととしている。</li> <li>・本市が目指す学校教育に関しては、複式学級では児童に十分に指導が行き届かないことや多人数でしかできないことが多くあり、今の教育に求められている深い学びと協働的な学びができていくことから、複式学級を解消すべきと考えている。また、地域の方々との交流や18年をつなぐ教育などについては、当然、再編後も継続すべきものと考えている。</li> <li>・これらのことから、先月24日に開催した定例教育委員会に諮り、<u>計画(案)は修正せず、再編を進めるに当たっての参考とすることで意見の一致を見ている。</u></li> <li>・<u>再編を進めるに当たっては、さらに多くの課題が出てくるものと考えており、新年度において構築する予定の準備委員会で、丁寧に協議していく。</u></li> </ul>

<p>②部活動の地域への移行に向けた課題は何か。また、地元の県立高校への進学を増やすため、福井県と協議は行っているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での部活動に代わって、地域におけるスポーツや文化活動の環境を整備し、生徒がそれぞれに適した環境で活動を行うことができる場の構築が求められている。</li> <li>・このため、受け皿となる組織や団体、指導者、実施場所などの確保、活動や送迎などにかかる経費負担、活動の継続性などが主な課題であると考えている。また、地域に移行された部活動は学校管理下ではなくなるため、教員の意識改革や生徒、保護者などの理解が必要となってくる。</li> <li>・令和5年度以降の段階的な部活動の地域移行を進めるため、新年度において、<u>まずは運動部活動の休日における地域移行に向け、調査や研究を進めていきたい。</u></li> <li>・教育委員会は、年3回、「中学校・高等学校連絡協議会」を開催し、学習指導や生徒指導、進路指導の現状や課題について協議を進め、地元高校への進学を促進する取り組みを行っている。</li> <li>・「大野っ子育成のつどい」では、県立学校から校長や教員も参加し、会場に地元の県立学校の魅力を紹介するブースを設けることで、参加している教員が魅力を知り、それを日々接する子どもたちに伝えることができるようにしている。</li> <li>・県教育長も出席する令和2年度の市町教育長会議では、「今後の県立高校の魅力化」について、福井県高等学校教育問題協議会からの答申が示されている。</li> <li>・大野高校と奥越明成高校は体験入学の機会を設け、中学生が高校生から様子を直接聞いたり質問したりすることで、進学意欲が高まり志望学科が決定したりする例も見られる。</li> <li>・本市には普通科系高校と職業系高校があるため、<u>それぞれの高校のカリキュラムや魅力を中学生にしっかりと伝えるなど、中学校において丁寧な進路指導に努め、地元高校への進学がさらに進むよう、さらに中高の連携を深めていく。</u></li> </ul>
--	---

<p>12/6 (月) 白 崎 貴 之 議 員</p>	<p>1 大野市小中学校タブレット端末の活用状況について／教育総務課長</p> <p>①児童生徒一人1台のタブレット端末を貸与しているが、現在、授業でどのように活用されているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、<u>全ての小中学校において、発達段階や教科の特性に合わせて、タブレット端末の効果的な活用方法についての研究を進めている。</u></li> <li>・小学校の低学年では、タブレットに表示された文章の大切な部分に赤や青で線を引いたり、図形の仲間分けや並び替えをして知識を深めたりしている。中学年の算数では、割算の仕方や図形の面積の求め方について図や文字でまとめ、モニターに映しながら発表したり、クラスメイト同士で画面を見せ合いながら教え合ったりしている。また、高学年や中学生では、環境問題や地域学習などの課題について、インターネットを利用して調べた内容を図や文字を入力してまとめ、モニターに映しながらプレゼンテーションを行ったり、クラスメイト同士で感想や意見を記入し合ったりすることも行っている。</li> <li>・教員は、児童生徒のタブレットの画面をモニターに並べて比較して見せたり、同じ意見を持つ児童生徒をオンライン上でグループを組ませ、グループで協力しながら同時に編集させたりもしている。また、学校間での交流授業も行われている。</li> <li>・タブレット端末は撮影や再生が容易にできるので、理科では、植物や動物などの様子を定期的に写真に撮り成長の過程を観察し、体育では、跳び箱を跳んでいる様子やランニングの様子を撮影し、その場で自分の体の動きを繰り返し確認しながら練習し、授業の終わりにはその動画をワークシートに貼り付けて感想なども記入している。その他、授業の終わりに、ノートや板書などを写真に撮っておくことで、記録を残すことも行っている。</li> <li>・児童生徒が主催する集会などで全学年にオンラインアンケートを実施し活動内容を決めたりもしている。また、<u>児童生徒の健康状態をオンラインで把握することで、臨時休業時における状態の把握に活用できないか検討している。</u></li> </ul>
---	---

<p>②各学校や各学年によるタブレット端末の利用頻度に違いはあるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校がそれぞれの特色を生かした実践が行われ、どの学校においてもタブレットの特性をよく理解し、「どの場面でどういう使い方が良いか」という議論を行っている。</li> <li>・<u>小学校では、低学年から高学年になるにつれタブレット端末の活用頻度が多くなり、特に国語、算数といった教科において多く活用されている。</u></li> <li>・<u>中学校では、学年や教科によって利用頻度にあまり差はなく、どの学年や教科においても積極的に活用されており、学習内容により差はあるものの、教材の特性に合わせた効果的な活用が行われている。</u></li> </ul>
<p>③現段階でタブレット端末の故障等の状況はどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに小学校4件、中学校1件、合計5件のタブレット端末の破損があったが、内容は、<u>全てタブレット端末画面のガラス割れである。主に、児童生徒がカメラ撮影などを行う際に、誤って落下させたことによるもので、故意等でなければ、教育委員会で対応している。</u></li> </ul>
<p>④各家庭での使用について、接続テストを実施しているとのことだが、家庭で問題なく利用可能なのか。通信機器等の貸し出し状況はどうなっているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭にWifi環境がない児童生徒に対しては、携帯電話の公衆回線を使用するLTE端末を貸与することで対応している。<u>令和3年度において、家庭にWifi環境がない児童生徒数は、全体の4%に当たる91人であり、市が保有するLTE端末240台で対応できる状況。</u></li> <li>・臨時休業や、新型コロナウイルス感染症による長期出席停止となった場合などに、家庭に持ち帰らせオンライン授業を行うことで、学びを保障することとしている。</li> <li>・このため、各家庭でのタブレット端末の接続テストについては、<u>本年9月から11月にかけて市内全小中学校で実施した結果、接続の不具合が1件確認されたことから、その原因を含めて対応策を検討しているところである。</u></li> <li>・また、各学校においては、オンライン授業に備え、児童生徒に対し指導を行っている段階であり、<u>実際にオンライン授業の試行を行った学校では、オンラインでの効果的な授業の進め方について議論を進めているところである。</u></li> </ul>

12/6	2 未就学児への英語教育について/こども支援課長	
(月) ダ ニ エ ル 益 資 議 員	①未就学児に対する英語教育を大野市で実施していくべきだと考えるが、教育委員会の考えは。	・厚生労働省が定める「保育所保育指針」や、内閣府が定める「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」においては、教育・保育の狙いが「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五つの領域に分類され、明記されており、「言葉」の領域においては、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うこととされている。「環境」の領域においては、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどを養うこととされている。 ・就学前の子どもが、遊びや活動の中で英語に触れ、子ども自身が興味や関心を持ち、英語を通して多様な文化に触れることは、成長においても大切なことであると考えている。 ・市内の保育所や認定こども園の中には、英語に親しむ機会を創出している所もあり、 <u>初めての試みとして、公立保育所のクリスマス会に市ALTに参加してもらう予定である。</u> ・ <u>これ園以外の行事として、今月23日に地域子育て支援センターと子育て交流広場「ちっく・たっく」でALTを講師に、英語に親しむきっかけづくりとなるイベントを実施する。</u> ・ <u>今後も、これまでと同様に、遊びを通して、英語に親しんだり、日本以外の外国があることを知ったり、子どもたちが楽しさを感じられるよう取り組んでいきたい。</u>
	②未就学児に対する英語教育について、令和4年度の予算案に反映させる予定かどうか。	・「保育所保育指針」や「認定こども園教育・保育要領」に基づいた教育・保育を継続することで、子どもの健全な心身の発達を図っていきたくと考えているので、 <u>英語教育に特化した取り組みの、令和4年度の予算案への反映は考えていない。</u>



12/7	2 教育長の政治姿勢について／教育長	
(火) 高岡和行議員	①小中学校再編における現在の進捗はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月末から8月末にかけて、児童生徒や未就学児の保護者、地区の皆さん、教職員を対象に再編計画(案)の説明会を開催し、延べ462人の参加があり、ライブ配信も1,091回視聴された。</li> <li>・説明会では、学校数や再編時期、再編方法に対してよりも、児童生徒の登下校の負担、再編後の学校に早く馴染めるか心配、制服や体操服をどうするかなど、計画を進めるに当たっての意見や提案を多く聞いた一方で、再編を機に新しい生活への期待も多くあった。</li> <li>・10月14日には、本年度第1回目となる大野市小中学校再編計画検討委員会を開催し、説明会の結果概要を報告するとともに、再編計画(案)の内容について確認した。</li> <li>・11月1日から15日までの15日間、パブリックコメントを行い、学校数や本市の教育の在り方など、7人から13件の意見をいただいた。</li> <li>・パブリックコメントでの意見についても、説明会と同様に、児童生徒や保護者の負担軽減、再編した後の学校教育のあり方など、計画を進めるに当たっての意見や提案の方が多く寄せられ、これらのご意見については、先月24日に開催された定例教育委員会に諮り、計画(案)は修正せず、再編を進めるに当たっての参考とすることで意見の一致を見た。</li> <li>・今後は、今月16日に第2回検討委員会を開催し、パブリックコメントへの対応を報告し、再編計画(案)を確認した上で、総合教育会議で協議し、21日に開催予定の定例教育委員会で再編計画の改訂を提案したいと考えている。<u>計画の改訂が承認されたら、年明けから取り組みを進めていく。</u></li> <li>・再編を進めるに当たって、多くの課題を想定しているため、新年度に保護者や地域の代表、学校関係者などで構成する予定の学校再編準備委員会で、丁寧に協議していく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・<u>本年度の小学校の児童数が1,376人、中学校の生徒数が782人となっているのが、令和12年度にはそれぞれ1,052人、633人と、将来にわたって減少傾向が続くものと予測している。</u></li><li>・<u>これからの児童生徒数の減少や国の教育制度改革の動向なども継続して注視し、本市にふさわしい新しい時代の学校教育の在り方を中長期的に検討していきたいと考えている。</u></li><li>・<u>学校再編の目的である本市の児童生徒に対する最適な教育環境の整備に向け、児童生徒や保護者の負担軽減、不安解消などさまざまな課題に慎重に丁寧に対応し、着実に進めていく。</u></li></ul>
--	--